



…今回は『カラスのくるみ割り』の話です。

もっと周囲の自然に 目を向けよう !!

気温が下がって来ると、ストーブやこたつがあるとホッとします。

寒い季節、「ストーブやこたつ」がないところで生き物はどんな生活をしているのか気になります。暖かいところまで飛んでいく蝶や鳥もいます。

…先日9月25日に富山県から放たれ蝶が11月10日2280km離れた台湾で発見したという報道がありました。

生き物によっては近くの暖かいところに移動して、集団で温め合う「かめむし」や「てんとうむし」もいます。あまり出歩くことをしないで、風のこない暖かい土の中で冬眠する「くま・やまね」などもいます。

おちばの間に潜り込んで寒さを避ける、昆虫もいます。その昆虫も、たまごのままで、あるいは幼虫になっているものもいますし、さなぎで冬越ししたり、成虫のままで冬越しをする蝶もいます。落ち葉や土の中に潜って、寒い冬を乗り切る生き物は多くいます。いろいろ工夫していますね。

その一方で、少々風がふいて寒くても元気に動き回っている生き物もいます。寒さに耐えること、食べものの確保ができることができれば天敵が少ない冬は意外に過ごしやすのかもしれません。本当にいろいろな生活がありますね。

寒い時期になりますと皆さんが登校する校門から各学校の入り口までの間に時々「見かけない落とし物」があります。片面は黒っぽくてゴツゴツしています。反対側はつるつるしたところもある小さな小部屋に仕切られ、角が尖った薄い壁で仕切られたようになっていようにも見えます。大きさは様々で形がわかる大きなものから半球状のものなど全くお構いなしの形です。

何かわかりますか・・・写真を見て大部分の人は気づいたと思います。ちらばっているものは「くるみ」です。



《なぜ「くるみ」のかけらが校舎の近くに散らばっているか》

クルミはケーキの中に練り込まれたり、パンのなかに入れて《くるみパン》になったり、美味しい「ケーキ」にも入っています。いろいろな食べ物の中にも使われています。とてもおいしい食材です。



高さ20m以上にもなる大きなくるみの木



くるみの冬芽



くるみの雌花



くるみ

くるみの木は色々あります。普通私たちが食べているくるみは「しなのぐるみ・てうちぐるみ」など殻を割りやすい外来種です。河川の下流域や中州で見かけるものは一般に殻が固い「おにぐるみ」と言われています。「カラスのくるみ割り」には多くの場合、鬼ぐるみの場合が多いようです。啓明の中では初等学校体育館の舞台側の外側や多摩川の中州に何本かのくるみを見ることができます。

(北原F)

くるみのかけらが、なぜこんなところに落ちているのでしょうか？

校舎の間のあちこちに、くるみのからを散らかしたのはカラスです。「なんで、「からす」とわかるのですか？」と言う質問がありそうですが、宮沢先生が目撃した話を聞いてください。

保健の宮沢先生が目撃証言

宮沢先生が一昨年、「カラスのくるみ割り」を目撃したときのメモです。

カラスの「くるみ割り行動」の話は同僚の先生から伺っており、知っていました。しかし、身近に観察する機会はありませんでした。

先日、北側の窓に近いところで作業をしていました。特に気にしていた訳ではありませんが視界に何か黒い影が何回か入りました。目を上げるとカラスがいつもよりずっと低空を飛んでいました。何かを啜って飛び上がる様子もありました。少しして窓越しに「ガシッ」という音がしたと思ったら再度カラスが急降下してきました。これがカラスの「くるみ割り行動」かと思い、気づかれないように外に出てみました。中学校舎の屋上に何羽かのカラスがおり、あちこち見て警戒している雰囲気でした。そっと部屋に戻りましたがその後は「ガシッ」という音は聞くことができませんでした。急降下するカラスは何時もの「のどかなカラス」と違い「猛禽類が獲物を狙う翼を後方にぐっと引いての前傾姿勢でした。」とても貴重な瞬間を見た思いでした。



中の茶色のものが堅果



集められたくるみ



真ん中でうまく割れたくるみ、白いところが葉になる部分

おにぐるみは殻の表面の凸凹が鬼の顔のように見えるから・・・と言う説もあるようですが私には見えません。花が咲いた後、堅果(くるみの堅い部分)の中に種子が入っています。ここが美味しいところです。くるみは「リスやねずみ」など前歯の発達した仲間の冬の食べ物として大事な食料になります。

カラスのクルミ割り行動

“カラスは頭のいい鳥です”とよく言われています。その一つに堅いクルミを高さ 15~20m (建物の 3~4 階) の高さからクルミを落として割り、中の実を食べる行動のことで。

くるみではなく巻き貝を高いところから落として割り、中の貝を食べる「貝落とし」の目撃もあちこちから報告されており、カラスの行動は日本の各地で見られるようです。一部の地域では道路の「轍(わだち)減り」の部分にクルミを置き、車にクルミをひかして割り、くるみを食べるカラスのグループもいる」という報告もあります。青梅の「青梅自然誌研究グループ」の報告ではハシボソカラスに多く見られる行動と思われるがハシブトカラスにおいても「くるみ割り行動」が見られたと報告があります。

啓明学園での『カラスのくるみ割り行動』

くるみ割り行動の範囲

オニグルミの木は校内に数本あります。学校の近くでは 200mほどの距離にある多摩川の中州周辺に数本あります。そのあたりから「くるみ」を運んでくると考えられます。カラスの行動範囲を知る意味でも参考になるかと思います。そんなところから、わざわざ 3~4 cmもある、くるみをくわえてきて、コンクリートの上空でくるみを落として、くるみを割るわけです。カラスにとって、くるみはとても魅力的な味だと思います。

※園児や初等低学年では、読み解けないことが多数あります。保護者の方が読み聞かせをしたり、お子様がわかるようにお話していただく、などのご協力をさせていただけるとありがたいです。

